

# ほとけ み仏はほほえみて

## ■ 楽曲データ

歌詞：黒川大也 作詞

楽曲：長谷川良夫 作曲

発表：大谷楽苑 1948年

初演：大阪毎日会館 1948年

初出：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

管理番号：M1897

## ■ 創作の経緯

大谷楽苑より「讃仰歌」第2番として発表。歌詞は公募による。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

《み仏はほほえみて》は、厳かな力強さを持つ仏教讃歌です。穏やかな曲調のなかに厳しくも温かい阿弥陀さまの導きを示されており、その言葉の強さと重みを感じます。それにつけ、これまでどれほど多くの方がこの歌に心を揺すぶられ、また励まされてきたことか、と思わずにはられません。冬の静かなひとときに、深い内省をうながす一曲だといえるのではないのでしょうか。

## ◆ 歌詞の内容と音楽について

《み仏はほほえみて》は、真宗大谷派内に結成された「大谷楽苑」の讃仰歌第2番として発表されました。作曲は、東京音楽学校（現・東京芸術大学音楽学部）出身で、後年母校にて音楽教育に尽力した長谷川良夫です。作詞者の黒川大也については、経歴等の詳細がわかっておりません。

歌詞は、み仏が我々の向かうべき道を説くという内容になっており、ごく簡潔にまとまっています。無駄な修飾のないひとつひとつの言葉が、詩の世界を一層高潔なものにしているといえるでしょう。あわせて音楽にも、削ぎ落とされた美しさがあります。

私見ですが、この曲が歌う者にとって難しいのは、音楽のつくりが、み仏の説く教えの本質に迫ろうとする強い意思を持っているからでしょう。張り詰めた

高音のメロディーや、広い音程を持つ跳躍は、相応の研ぎ澄まされた表現を求めます。それがみ仏の言う「こころ」に適うものであるかのように。

例えば1番の最後で「この道をふみてこそ」と歌うとき、この道がどんな道であっても踏み外してはならないので、歌も非常に難しい部分ですがしっかりと音程を取って「この道」を指し示す必要があるのです。

#### ◆歌い方

①フレーズのまとまりがやや不規則であり、アウフタクト（メロディーの出だしが前の小節の終わりにあること）で始まってから最後まで休符がないために、音楽の流れがつかみ難いかもしれません。また、深くたっぷりとした息づかいを必要としますので、テンポは遅すぎないようにし、ブレス（息継ぎ）の位置とタイミングに気をつけて練習してください。

②前半は2小節＋2小節＋2小節の6小節からなります。2小節ごとに入るブレスによって、大きなフレーズが細切れにならないように注意してください。また「ほほえみて」では、いったんメロディーが終わってしまうように感じられますが、「さし給う」まで一続きになるように心づもりして歌いましょう。「みほとけは～さし給う」とつながるように。

③歌が始まってからの6小節はメゾピアノ（やや弱く）以外の表示がありませんが、一様に弱々しく平坦にならないように。特に6小節目の終わりから8小節目にかけてのメロディーの下降は力が抜けてしまいがちですので、注意してください。

④「さし給う」の部分は決然として。オクターヴの跳躍（ミ→ミ）は音程がぶれないようにします。み仏の「さし給う」姿を思い描き、メゾピアノのなかでも緊張感を持って、芯のある表現を試みてください。

⑤10小節目の終わりから14小節目まではブレスなしで大きくひとまとまりにします。前半の抑えた表現が後半で開放されたようなイメージを持って歌ってください。11小節目からのクレッシェンド（次第に強く）は「こころ」に向かいます。この「こ」は少し言い直すようにして強調しましょう。加えて「真直なるこころ」「清々しこころ」「たくましきこころ」「美わしきこころ」のそれぞれの歌詞が、しっかりと音に乗るように練習してください。

⑥14・15小節目の跳躍（ラ→ファ）、また16・17小節目の跳躍（ミ→ミ）は頭声をうまく使いましょう。フレーズの最後はご自分の胸にたたみかけるように収めます。

#### ◆楽譜について

原曲は混声四部合唱です。楽譜は『聖歌・讃歌集』第2巻をご覧ください。また、二部合唱版が『讃歌集 二部合唱』第7巻に掲載されています。

解説執筆：石川紀久子（元・本願寺仏教音楽・儀礼研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所] 委託研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 81（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第208号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.